

所信表明書

「山陽小野田市立山口東京理科大学の永続的な発展」

（山陽小野田市立山口東京理科大学の現状及び将来に関する考え方又は学長就任の抱負）

学長候補者 氏名 望月 正隆

○ 研究学園地区として、山口東京理科大学周辺を位置づけ、山陽小野田市の中核の一つとなるよう、教職員と学生は一丸となって努力し、山陽小野田市のますますの発展に寄与する。学生は工学部では4年間、薬学部では6年間を過ごして学部卒業となる。この地域に愛着を持ち、第二の故郷として、一旦は市外に就職しても、再びこの街に戻ってくるような心を持たせたい。また、大学院に進学する学生を多く作り上げ、地域に根差し、地域社会の発展に寄与する「地域のキーパーソン」を育成する。

○ 自分の利益よりも、人に役立つことを第一の生きがいとするエンジニアおよび薬剤師を共に育て上げ、公立薬工系大学として、薬工連携により、エンジニアや薬剤師として一段上位に尊敬され得る卒業生を育てる。

○ 生涯学習センター・情報教育研究センター・医療薬学教育研究センターをはじめとする各種センターを設置し、地域住民の社会人教育を展開する。市民の誇りとなる大学として発展し続けられるよう、山陽小野田市と連携協力し、学生の要望をできるだけ取り入れ、大学および地域の発展をめざす大学づくりを推進する。生涯学習センターにおいては、高校生に対する薬学の啓蒙教育、卒業生・薬剤師および一般市民に対する生涯学習教育としての公開講座、コンピュータを駆使した薬剤師教育、さらには中国地方各地における公開講座など、本学ならではの各種形態による教育活動を展開する。学部学生・大学院学生、および社会人薬剤師の医療薬学教育の核として、医療薬学センターを設置する。学生を教育する機関であるので、費用がかかるのは当然ではあるが、できるだけ有効に教育する体制であると共に、地域の医療機関の一端として受け入れられるものをめざす。病院・薬局・薬剤師会との提携、地域住民のみならず山陽小野田市在勤者への利用の拡大などにより、大学がさらに地域にとけ込む努力をする。

総合情報センターは学内での図書館を情報施設として、本学の教育・研究に大きく寄与する機能だけではなく、本学の特徴とする情報教育に関与し、医療情報処理の方法論の研究を行い、地域社会および卒業生への情報提供による貢献を考える。

○ 薬学部の設置計画を完成年度まで確実に履行・完了するとともに、大学院薬学研究科の設置を計画的に推進し、さらなる発展を不動のものとする。

○ 工学教育については、令和元年11月27日に工学部でまとめた工学教育の改革について(答申)を実現することに全力を挙げる。また薬学教育については来年4月から4年後の完成年度に向け、山口県唯一の薬系大学として総力を挙げて努力する。さらに、工学部の学部・大学院6年一貫教育、薬学部の大学院博士課程を実現し、工学と薬学の複合領域の教育・研究を特色とする。地域における教育・研究の拠点としての地位を強固にするとともに、山陽小野田市立山口東京理科大学のブランドを確立するビジョンを作り、実力を有する人材を育てる。工学部がまとめた再構築を計画的に完了するとともに、薬工連携のもとで教育・研究・社会貢献活動を大きく推進させる。

○ 本学の教育の中心はあくまでも学生であり、学生を直接指導する教員とそれを学ぶ学生が全力で大学教育を完成する場を事務職員が作り出し、それらすべてを見守り、共に育て上げる理事会と山陽小野田市の協力により、全学的な視点から、教職員ひとりひとりの意欲と能力を最大限に引き出して、最高の就学環境を作り出す。

○ 副理事長として池北理事長を補佐し、ガバナンスに沿った人材を育成し、理事会・教授会の協力関係を確固たるものとし、市内はもちろんのこと、県内諸組織との連携を深め、新しい教育・研究体制を構築する。

○ 学部・大学院教育の充実のため、今後もさらに産学連携、国際化、教育の質保証、教育課程の改革、単位制度の実質化、入試改革、健全経営に全力を挙げて学内組織一体となり取り組んでゆく。病院を持たない公立大学薬学部として、山陽小野田市民病院との強い連携はもちろんであるが、山口労災病院、小野田赤十字病院、山口大学医学部附属病院、宇部興産中央病院との強い連携のもとに医療薬学教育を展開する。

○ 医療薬学を重視して、学部学生全員に薬剤師の資格が取れるように教育する。人に優しい薬剤師として病院・薬局業務はもとより、衛生行政、企業での研究・開発業務、研究・教育機関での研究・教育等に携わり、科学を身につけ、科学的な素養の上に医療人としての自覚を持てるような、他学部出身者とはひと味違った職業人を養成することを目標とする。そのためにも国家試験の全員の合格を目指して学生に向学心を沸かせる教育を展開する。

○ 薬学の中の医療の重要性はますます高くなっており、学部学生・大学院学生、および社会人薬剤師の医療薬学教育の核として、医療薬学センターを設置する。学生を教育する機関として、有効に教育する体制であると共に、地域の医療機関の一端として、病院・薬局・薬剤師会との提携、地域住民のみならず在勤者への利用の拡大などにより、大学がさらに地域にとけ込む努力をする。

○ ただ単に学生の自主性を期待するのではなく、適切に学習の時期と方法を指導する必要がある、低学年における補習および導入教育、再編成による一貫した系統的な実習、特論授業による国家試験対策等により、確実に薬剤師資格を取得できる教育体制を作る。6年間の学習の総仕上げとして、卒論実習で自分だけの新しいテーマに取り組み、解析して、卒業論文として纏めることは薬学部の特長としたい。